

4.まとめ

今回の調査は、下野薬師寺跡の再建の塔跡の北側地区の実態の解明を目的として実施しました。

今回の調査区では、過去に住宅の納屋の建替えに伴って実施した第11次調査(1989年)の際に、基壇建物跡の一部と考えられる痕跡を確認しており、第41次調査(2019年)、馬場下遺跡(2021年)で確認した3棟の基壇建物群(基壇建物跡5011、6003、6008)との関連を考慮しました。

今回確認した基壇建物跡7002は、第11次調査で確認したものと同一の建物と考えられます。3棟の基壇建物群の南に隣接することから、これらを構成する建物群のひとつである可能性が高いと考えられます。

これらの建物群は、寺の運営にかかわる何らかの「院(いん)」を構成する建物群のひとつと考えられます。院の性格については、今回の調査では明らかにできませんでしたが、これまで確認されている基壇建物跡の規模が、伽藍中心部の金堂や講堂に匹敵することから、中枢機能を担う施設であった可能性があります。

下野薬師寺に存在した院の一例としては、寺の運営の中枢を担う大衆院(だいしゅいん)、天平宝字5年(761)に設置された戒壇院(かいだんいん)などが挙げられます。

今回の調査によって寺の運営に関わる建物群のエリアがさらに広がることが明らかになりました。建物群の性格については、今後の調査で解明してまいります。



基壇建物跡7002と掘建柱建物7001(西から)



掘建柱建物7009(南東から)

下野市は、当市の歴史的特性を東(ひがし)の飛鳥(あすか)と名付け、シティプロモーションに取り組んでいます。

1,500年前の飛鳥時代から、下野市は自然災害が少なく、とても住みやすい(くらしにウツェツケな)場所です。そのため、市内には東国を代表する史跡等が数多く遺されています。その歴史文化の特性を、日本の古代文化発祥の地である奈良県飛鳥地方と同様であることから、東の飛鳥と名付けました。

東の飛鳥プロジェクト
ご紹介ページ

史跡下野薬師寺跡第43次調査
現地説明会資料(2024.12.21)

編集・発行 下野市教育委員会
文化財課

〒329-0492
栃木県下野市笹原26
Tel 0285-32-6105
E-mail
bunkazai@city.shimotsuke.lg.jp

2024.12.21 現地説明会資料

し せ き し も つ け や く し し じ あ と
史 跡 下 野 薬 師 寺 跡
第 4 3 次 発 掘 調 査
史 跡 の 範 囲 ・ 内 容 確 認 調 査

1.下野薬師寺について

下野薬師寺は、大宝律令の選定など中央で活躍した下毛野朝臣古麻呂(しもつけのあそんこまろ)の一族の深い関与によって、7世紀末に創建されたと考えられています。

奈良時代前半には東国唯一の国立寺院として、造下野薬師寺司(ぞうしもつけやくしじし)による造営が行われました。

奈良時代中頃には、奈良の東大寺、大宰府の筑紫観世音寺(つくしかんぜおんじ)と共に僧の資格を得るための場である戒壇(かいだん)が設置され東国仏教の中心寺院として隆盛を極めました。

下野市では、貴重な文化遺産を未来へと継承する取り組みとして、史跡下野薬師寺跡保存整備事業を推進しています。令和6年度は、下野薬師寺跡の再建の塔跡の北側地区の実態の解明を目的として、第43次調査を実施しました。

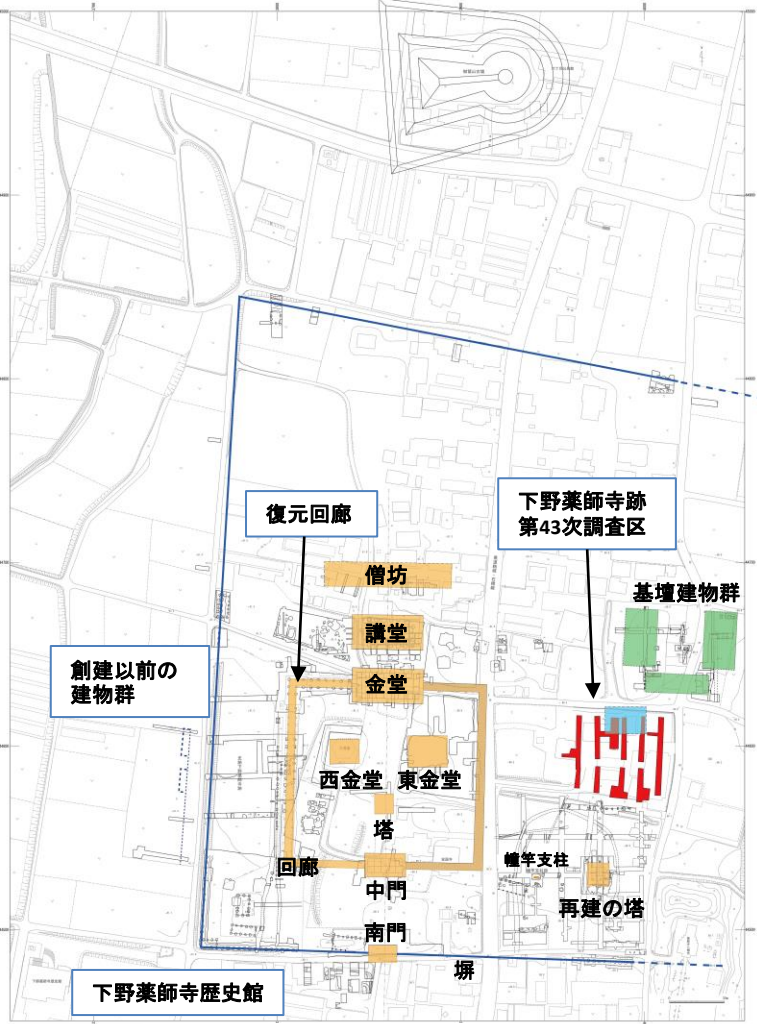
2.下野薬師寺跡第43次調査

これまでの発掘調査によって、寺の周囲を東西250m以上、南北350mの堀、伽藍(がらん)中心部を1辺105mの回廊で区画していることが明らかになりました。

中心部には、南門・中門・創建の塔・金堂・講堂・僧坊(そうぼう)が南北に並び、金堂の南正面の東西には金堂と考えられる大小の基壇(きだん)が存在します。

また、東には、幢竿支柱(どうかんしちゅう)が存在し、伽藍中心部の塔が焼失したことによって、9世紀に再建された塔が存在します(図版1)。

今回は、再建の塔の北側の利用形態の解明を目的として調査を実施しました。その結果、基壇建物群の一部と考えられる基壇建物を確認しました。



図版1 下野薬師寺跡

3.調査の概要

第43次調査は、下野薬師寺跡の保存と再建の塔跡北側地区の利用形態の解明を目的としています。遺構の保存を優先するため、必要最低限の発掘調査を行っています。

今回の調査区では、第11次調査(1989年)で実施した納屋の建替えに伴う確認調査の際に、基壇建物跡の一部を確認しています。

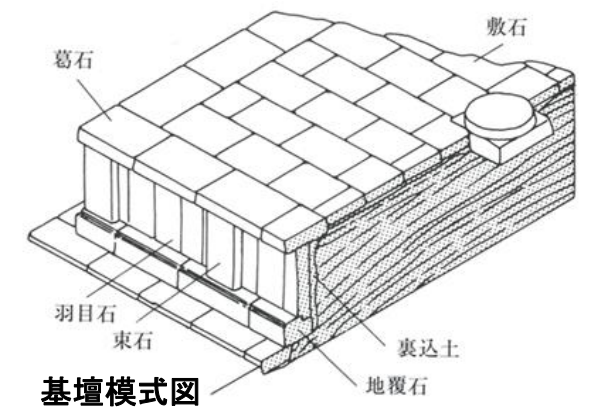
調査の結果、基壇建物跡1棟、掘立柱建物跡2棟、竪穴建物跡6棟、溝跡3条、不明遺構1基を確認しました。

基壇(きだん)建物跡

基壇建物跡7002は、北側が調査区外、西側を7010溝跡で破壊されていることから、東西22m以上、南北9m以上の基壇規模であると考えられます。

確認できる基壇の深さは、基壇上面から40cm程度。礎石や基壇化粧の痕跡は確認できませんでした。

なお、下層では掘立柱建物跡7001が見つかっています。



基壇模式図

掘立柱(ほったてばしら)建物跡

掘立柱建物跡7009は、竪穴建物跡7008と重複します。東西3間分の柱を確認しています。

第19次調査(1995年)で確認した掘立柱建物跡1128は、東西5間、南北1間以上、柱間約3mであることから、今回確認した掘立柱建物跡7009の南側の柱列の可能性が高いことがわかりました。

掘立柱建物跡7009の時期を特定できる遺物は出土していませんが、重複する竪穴建物跡7008の出土遺物の年代が7世紀中頃以降であることから、下野薬師寺の創建以降に造営されたことが考えられます。

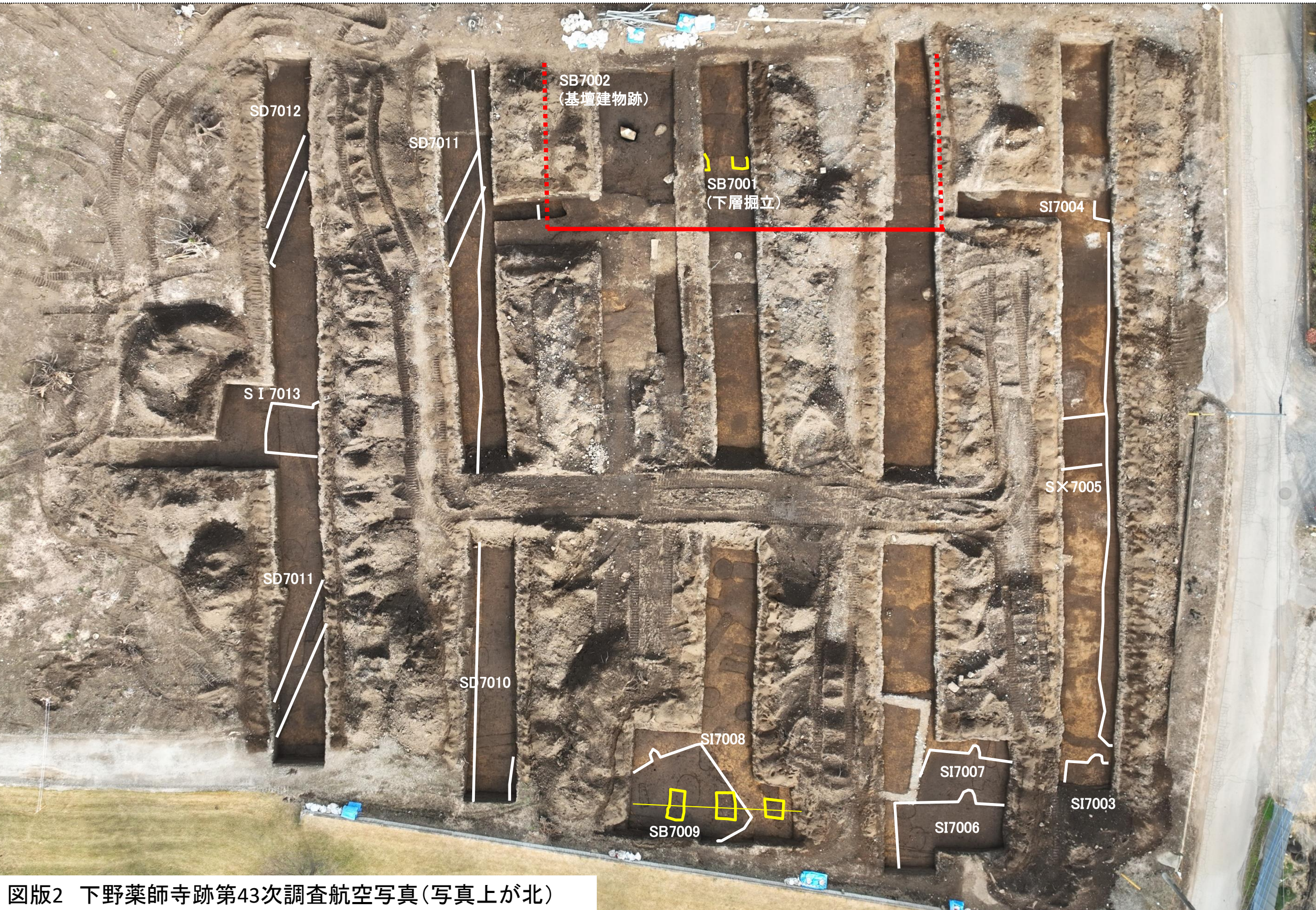
竪穴(たてあな)建物跡

第19次調査の際には、再建の塔跡地区に竪穴建物跡が存在することが明らかになっています。

今回堀下げを行った竪穴建物跡7006は、埋土中より瓦片が出土することから、下野薬師寺創建以降につくられたと考えられます。

溝(みぞ)跡

調査区西側で確認した溝跡7012・7011は、やや東に傾きながら南北に平行します。溝跡の距離は約10m、溝幅は約1m、深さは30cm。埋土の状況から、掘り直しが行われ、2時期の溝が存在したことが考えられます。



図版2 下野薬師寺跡第43次調査航空写真(写真上が北)